

知って
おきたい

暮らしてお金のいろは

第12回

Q 先日、70歳の父親が散歩中に転んで骨折し、入院しました。若い時は運動神経抜群だった父の入院で、自分も老後が心配になりました。老後に備える医療保険を選ぶポイントを教えてください。

(40代 男性)

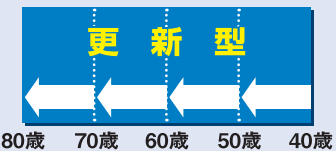
A 公的医療保険制度の仕組みを知った上で生命保険に加入することが、老後に備える保険を選ぶ大切なポイントです。

健康だった方の入院が、本人、ご家族にとって自分の将来を考える機会になるケースは少なくありません。まず大切なのが「公的医療保険制度」で、一般に「3割負担」「高額療養費制度」があります。

次に生命保険選びですが、多くの場合、医療費の大部分は公的医療保険制度でまかなわれます。そこで重要となるのが「保障期間」です。左記の3つの基本型があります。

- ◆更新型…「保険期間10年」など一定年数を保障。一般的に80歳まで更新可能。割安な保険料で加入できる。更新時に保険料が上がる
 - ◆全期型…契約時に定めた年齢までを保障期間とする。保険期間は一般的に80歳まで。保険料は一定。契約時は更新型より高い保険料
 - ◆終身型…生涯の保障。保険料は払い込み終了まで一定。短期払いだと保険料は高くなる。終身払いだと短期払いより割安
- これらを踏まえ、病気やけがを前提に、保障が「いつまで」必要なのかを考える必要があります。十分な貯蓄がある場合は、医療保険が不要なケースもあるので、まず身近な専門家に相談することをお勧めします。

医療保険の3つの基本型例



高額療養費制度の一例

医療費総額100万円の場合の自己負担
(所得：一般)

8万100円+
(100万円-26万7000円)×1%
=8万7430円

自己
負担額

※生命保険会社によって3つの保険の商品特性や保険料は違います。加入する時は詳細の確認が必要です

2014年6月現在の税制・税率に基づき作成しています。税制・税率は将来変更されることがありますのでご注意ください。また、個別の税務に関する取り扱いは、税理士または所轄の税務署にて確認してください。

協力 募集代理店 (株) ファミリーライフクラモチ 大森 健一さん

独立系FP事務所 (株) ファミリーライフクラモチ所属。AFP・住宅

ローンアドバイザーの資格を活用し、セミナー講師・個別相談等を実施。

募集代理店 (株) ファミリーライフクラモチ 土浦市永国997の1 ☎0120・1230005

